

平成 21 年度事業計画案

事業計画案の要約

平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日

平成 21 年度事業は、学会活動の活性化に向けて、執行を担当する各委員会を主体に計画しており、具体的活動の詳細は平成 21 年度事業計画案をご参照ください。

1. 新規事業

- 国際会議招致事業
ACRA2010 (当学会主催), ICR2015(招致立候補中)

2. 新規の出版物

- 冷凍空調便覧改訂第 6 版 1 巻：基礎編
- 食品冷凍技術
- 冷凍空調設備のサービスマンテナンス
- 密閉型圧縮機
- HFO1234yf の p-h 線図

3. プロジェクトの継続

- ヒートポンプの期間性能評価手法に関する調査研究
- CO₂を含む将来冷媒の先進熱交換技術に関する調査研究

4. 継続する事業

4.1 集会事業

- 通常総会
- 2009 年度年次大会
- 第 43 回空気調和・冷凍連合講演会 (幹事学会：日本冷凍空調学会)
- 定例講習会 (冷凍空調技術講習会, 食品冷凍技術講習会, 第 1 種・第 2 種冷凍機械講習会など)
- 随時講習会・見学会
- 若手研修事業の開催
- 冷凍技士研修会

4.2 学会誌・論文集の発行

4.3 冷凍技士 Newsletter の発行

4.4 学会賞の選考・授与

4.5 ホームページ・メールマガジンの運営

4.6 継続教育の継続運営 (参加登録, ポイント認定の受付)

4.7 国際交流 (IIR、ASHRAE、SAREK)

4.8 学生会員学会発表助成制度

4.9 資格試験 (冷凍空調技士・食品冷凍技士)

など、従来 of 事業を発展的に継続します。

5. その他本学会の目的を達成するために必要な事業

平成21年度 事業計画案

平成21年4月1日～平成22年3月31日

1 総会・理事会に関する事項

通常総会 平成21年5月14日 1回（東京）
 総会特別講演会
 理事会 3回

2 常務理事会に関する事項

8月を除く毎月 11回

1) 常務理事会

2) 担当常務理事会

総務・会計担当常務理事会
 学術・編集担当常務理事会
 事業担当常務理事会

3) 会長・副会長会議

4回

3 事業内容詳細

平成21年度事業は、学会活動の活性化に向けて、執行する各委員会を主体に計画しています。

3-1) 会長直轄委員会に関する事項

委員会名	活動計画	活動日程	具体的活動事項
政策委員会	1. 理事2期4年制度（内規）の総括 2. 会長任期、選出方法の検討	・H21.5～H22.4 ・中間報告：H21年8月常務理事会 ・最終報告：H22年1月常務理事会 ・公益法人化検討への対応を含む	下記2項目を公益法人化のスケジュールに合致させながら、検討する。 1. 理事任期2期4年制度の総括 理事任期の内規（2期4年で交代）が発効して10年が経過した。そこで、その間に判明した現内規の良い点や課題を洗い出し、必要に応じて内規見直し案を常務理事会に提案する。 1) 他学会の理事任期制度の調査 2) 歴代理事へのアンケート調査 3) 現内規の総括、検討 4) 常務理事会への提案 2. 会長任期・選出方法の検討 現在会長任期は、内規により理事任期と同様の最長2期4年であるが、長すぎるとの意見もある。そこで、会長任期の検討を行う。ならびに会長選出方法についても検討を行う。 1) 他学会の会長任期制度の調査 2) 歴代会長へのアンケート調査 3) 現内規の見直し検討 4) 常務理事会への提案
継続教育センター	CPD連絡会を通して関連学協会と協調し、機械系CPDの運用システム構築に向けた検討を進める。 主な課題は、 1. 学会におけるCPDポイント管理の効率化 学協会間での 2. CPDプログラムの相互認証 3. CPD単位の相互承認である。	委員会：2回/年	1. 日本機械学会でのCPD連絡会，日本工学会CPD協議会総会への参加 2. CPDポイント管理システム（会員証の利用）構築に向けた検討

3-2) 担当常務理事会に関する事項

総務・会計担当常務理事会

委員会名	活動計画	活動日程	具体的活動事項
広報委員会	1. 一般向けホームページの管理，充実 2. 会員専用ホームページの管理，充実 3. メールマガジン 4. プレスミーティング	通期 通期 11月 1回/月 9月	1-1) 会告等の随時追加 1-2) 各ホームページへの学会ロゴ表示 1-3) ホームページの統一感向上 2-1) 学会誌「冷凍」の順次追加 2-2) 年次大会の基調講演等の追加 2-3) 既刊行（1年後）の論文集の掲載 3-1) 1回/月の発行 4-1) 学会活動、年次大会のプレスへの紹介

国際委員会	<ul style="list-style-type: none"> 1. AAA (Asian Academic Award) の実施と強化. 2. IIR総会の支援 3. 国外関連学会との連携強化 4. ASHRAE, IIR国内委員会の検討事項の整理と議論. 5. SAREKとの連携強化 6. ACRAの支援 	3回/年	<ul style="list-style-type: none"> 1. AAAの選定と総会での授与を執り行うと共に、関係国と連絡を取り合う 2. 次回IIR総会の支援を事務局と共に行う 3. 国際会議等の協賛を行うとともに、連携強化の方策および連携学会の増加案を検討する 4. 委員会にてASHRAE, IIR国内委員会の検討事項の整理と議論を行う 5. SAREKとの情報交換(学会誌記事交換)および両学会年次大会での交流を推進する. 6. 次回ACRAの支援を行う.
IIR国内分科会	<ul style="list-style-type: none"> 1. IIRの運営・活動への日本国内組織としての対応・協力 2. IIRと国内関連組織との連携強化 3. ICR2015開催の準備 	1回/年 (その他、必要に応じてメール審議を行う)	<ul style="list-style-type: none"> 1-1) IIRのMC(Management Committee)、STC(Science and Technology Council)、EC(Executive Committee)、各種委員会への委員派遣。 1-2) IIR事務局より適宜要請される諸案件のうち、日本国内組織として協議を要する案件の審議。 2-1) 日本冷凍空調学会等の国内関連組織とIIRの関係強化の方策を検討する。 3-1) 実施委員会を設置する。 3-2) 関連団体に協力依頼する。 3-3) 関連企業に協力依頼する。 3-4) IIR本部職員を招聘し、打ち合わせる。 3-5) 実施の具体的内容を決める。
ASHRAE日本国内分科会	<ul style="list-style-type: none"> 1. ASHRAEとの連携活動の推進 2. ASHRAEの会議への参加 ・ Annual Conference ・ Winter Conference 3. 電子メールによる会議 	2009年6月20-24日 2010年1月23-27日	<ul style="list-style-type: none"> 2. Associate Society Alliance 会議への参加 ・ 日本冷凍空調学会の紹介 ・ 年次大会国際セッションの案内 ・ JSRAEが主催・共催する国際会議の案内 ・ 参加報告を学会誌「冷凍」に投稿 3. 必要に応じて分科会委員との会議
保安委員会	<ul style="list-style-type: none"> 1. 高圧ガス保安法関連適正な保安活動・規制の推進 2. 高圧ガス保安協会関連検討依頼事項への対応と提案関連委員会への委員派遣 3. 高圧ガス行政に関する情報交換と情報収集 4. 関連団体との交流 5. 会員への情報提供 	<p>定例委員会は、1回/3ヶ月開催を原則とする。(4, 7, 10, 1月)</p> <p>定例委員会では日程的に対応できない審議事項がある場合は、都度、臨時委員会開催あるいは、メール会議にて対応する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 冷凍保安規則関連法規の見直しによる、保安を確保した適正な規制を目指した継続活動。冷凍保安規則関係例示基準の改定要望案見直しと改定推進。 2. 冷凍保安規則関連法規に対する検討依頼事項の審議と学会として中立的立場に立った意見具申。関連委員会への委員派遣継続。 3. 公報確認, KHK・都道府県等との情報交換 4. 日本冷凍空調工業会, 日本冷凍空調設備工業連合会, 日本冷蔵倉庫協会等との意見交換, 経済産業省, KHKの関連委員会への参画による情報収集 5. 学会誌「冷凍」等による会員への情報提供: 高圧ガス保安法等の改訂動向・保安情報・講習会情報

学術・編集担当常務理事会

委員会名	活動計画	活動日程	具体的活動事項
学会誌編集委員会	学会誌「冷凍」の発行	編集委員会の開催 H21年 4月 6月 8月 10月 12月 H22年 2月 (合計6回)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 特集、小特集の企画・審議 2. 連載講座の企画・審議 3. 一般投稿の掲載審議 4. 技術原稿の依頼/掲載審議 5. その他(下記) H20年度に、委員会運営の課題(下記に一例)を解決してきたが、H21年度は、そのフォローと新たな課題の整理や対策を行う。 5-1) 「冷凍」の基本キーワード見直し 5-2) 校閲プロセスシート作成 5-3) ホームページの有効活用 5-4) 一般原稿のガイドライン作成 5-5) 「冷凍」のマンネリ化改善など

論文集編集委員会	<p>1. 日本冷凍空調学会論文集の編集を行ない、年間4回発行する。</p> <p>2. 特集号WGを立ち上げ、計画的に特集号の編集・発行を行っていく</p> <p>3. 論文の電子校閲化、機関リポジトリに対する対応</p>	<p>H21.4.1～H22.3.31</p> <p>H21.4.1～H22.3.31</p> <p>随時</p>	<p>1-1)投稿原稿の受理の判定</p> <p>1-2)校閲内規に従った、校閲者の選定、採否の決定、著者への採否決定の通知、否の場合の返却文の作成、論文集の編成などの校閲と編集業務。</p> <p>1-3)適切な校閲と編集・発刊を行なうための必要な処置。</p> <p>1-4)研究レビューの企画</p> <p>1-5)技術ノート等のカテゴリー検討</p> <p>1-6)執筆要項の見直し</p> <p>2-1)特集号WGによる特集号の企画</p> <p>2-2)時代背景から、冷凍空調業界のテーマと目的を提示し、特集テーマに関する論文を募集する。</p> <p>2-3)迅速な校閲を行うために、特集編集委員会を設置してエディタ制にて編集を行なう。</p> <p>3-1)機関リポジトリに対する対応を進める</p> <p>3-2)論文集購入者に対するオンライン閲覧</p> <p>3-3)電子校閲による校閲期間の短縮化</p>
学会賞選考委員会	学会賞の選考	2月	<p>学術賞分科会、技術賞分科会、優秀講演賞分科会、アジア学術賞分科会（学術賞分科会が兼ねる）からの候補を審議</p>
学術賞分科会	<p>1. 学術賞審査</p> <p>2. アジア学術賞審査</p> <p>3. 奨励賞審査</p>	H21.12～H22.2	<p>・学会賞選考委員会内規に基づき各賞の審査を迅速に行う。</p> <p>・校閲委員の評価の利用方法を検討する</p>
技術賞分科会	技術賞審査	<p>技術賞募集(4～7月)</p> <p>第1回分科会(6月)</p> <p>第2回分科会(9月)</p> <p>メール会議</p> <p>応募先との折衝</p> <p>実機審査日程および担当決定</p> <p>実機審査(10月)</p> <p>第3回分科会(11月)</p> <p>メール会議</p>	<p>学会誌およびHPにて</p> <p>H21年度の募集方法、選考方法の決定（委員の交代、選考方法の変更がわずかである場合、メール会議とする）</p> <p>理事会、学会誌編集委員会、論文集編集委員会などを通じて応募や候補選出依頼</p> <p>応募締め切り後、応募資格の確認、内容の審議</p> <p>各委員による採点、実機審査先の決定（事務局）</p> <p>事務局が日程調整を行い、委員長と相談の上決定</p> <p>3名/件</p> <p>実機審査報告</p> <p>来年度募集要項の決定</p> <p>採点</p> <p>技術賞候補選出、推薦理由書作成</p> <p>審査報告提出</p> <p>学術賞選考委員会 常務理事会 決定</p>
優秀講演賞分科会	年次大会における優秀講演賞授賞候補者の選定	学術講演会運営委員会と同時開催	<p>優秀講演賞選定基準・方法の改善・確認</p> <p>優秀講演賞候補者の選定</p>
学術講演会運営委員会	<p>1. 第43回空調和・冷凍連合講演会</p> <p>2009年度年次大会</p> <p>2010年度年次大会計画</p>	<p>第1回：6月</p> <p>第2回：9月</p> <p>第3回：11月</p> <p>第4回：3月</p>	<p>企画・運営に関する事項の検討・調整</p> <p>優秀講演賞に関する事項の検討・調整</p>
年次大会実行委員会	<p>第1回実行委員会</p> <p>第2回実行委員会</p> <p>第3回実行委員会</p> <p>第1回プログラム小委員会</p> <p>第2回プログラム小委員会</p> <p>2009年度年次大会</p> <p>第4回実行委員会</p>	<p>2009.5</p> <p>2009.7</p> <p>2009.9</p> <p>2009.8</p> <p>2009.9</p> <p>2009.10.21-10.23</p> <p>2010.1</p>	<p>年次大会の実施企画の検討</p> <p>年次大会の実施企画の検討</p> <p>年次大会の実施企画の検討</p> <p>年次大会プログラムの検討</p> <p>年次大会プログラムの検討</p> <p>講演会/企画/特別講演/懇親会の実施</p> <p>年次大会の反省</p>
JIS制定分科会	現行JISの見直しと改訂原案作成のための分科会、WG設置を企画	分科会2回	
JISB8240改訂原案作成委員会	原行JISB8240を見直し、改訂原案を年度内に作成	委員会4回	
技術企画委員会	技術企画委員会傘下の分科会及びWGの統廃合と新規立ち上げについて、適宜必要に応じ審議する	各月に開催される学術・編集担当常務理事会開催日に適宜同期開催	

食品技術分科会	コールド・チェーンの見直し コールド・チェーンに関して 種々の観点から、学・産・官の 間で情報交換を行い、合わせて 会員への情報提供を行う。	分科会の開催 年4回を予定	1. 食品カテゴリー毎の、最適コールド・チェーン 温度。 2. 最新の製造・保管・流通・消費のための設備・ 機器。 3. 低温流通食品の環境負荷から見た評価 消費場面までを含めたLCA。
冷媒技術分科会	分科会 冷媒熱物性に関して、大学研究 者、産業界、および官界との情 報交換を行なうと共に会員への 情報提供を行なう。 ワーキンググループ活動 1) JARef熱力学表出版準備WG (リーダー：東委員) 2) データベースWG (リーダー：市川委員) 熱物性計算ソフトの開発 学会HP用サンプルソフトの作成 3) 自然冷媒熱物性値準備WG (リーダー：香川主査) 自然冷媒の熱力学表出版準備 4) リエゾンWG (リーダー：田中委員) 機器市場での冷媒利用動向の調 査 5) 状態式WG (リーダー：粥川委員) 6) 冷媒再生・破壊WG (リーダー：福島委員)	H21年8月 H21年12月 H22年3月 計3回 各WGの会合 年1、2回程度 で、他はメール 会議 各WGの会合 年1,2回程度 で、他はメール 会議	(1) 冷媒熱物性に関する情報交換 (2) 冷媒熱物性に関するデータベースの拡充(文献 調査、データの入力等) (3) 混合冷媒、自然冷媒の熱力学表出版の方針 1) 熱力学表第3巻発行準備 2) 自然冷媒熱物性値準備WGおよび状態式WGに協 力し、リリース目的の状態式ソフトの準備 3) アンモニア、プロパン、イソブタン、二酸化炭素 (合版)の熱力学表出版準備 4-1) 機器・システム市場での冷媒利用動向のまとめ 方についての検討 4-2) 長期展望案の審議 5-1) 状態式レビュー取りまとめ 5-2) データベースの追加・更新 5-3) 状態式の評価 6-1) モデルプロセスの選定・データ提供 6-2) モデルプロセスの情報の入手
圧縮機技術分科会	1. 圧縮機技術分科会の開催 2. 年次大会への参画	年3回(4,7, 1月頃)開催予 定 H21年4月 7月 10月	1-1) 圧縮機技術テキストの内容編集 1-2) 圧縮機に係わる技術動向の把握 1-3) 圧縮機に係わる将来技術の展望 1-4) ワーキンググループやプロジェクトの設立検討 2-1) オーガナイズドセッションの企画 2-2) セミナー、報告会などの企画 2-3) 年次大会での企画実施
熱交換器技術分科会	熱交換器に関する技術動向の調 査、 産学連携プロジェクトの立案・ 運営・管理、 最新情報の会員への発信及び熱 交換器技術の体系化を行う	基本的に分科会 は伝熱技術WG 等の関連委員会 と同時開催す る。 開催月 第1回：6月 第2回：8月 第3回：10月 第4回：1月	1) 熱交換器に関する近年の技術動向及び技術シー ズの調査、並びに将来の技術の方向性の検討 2) 産学連携プロジェクト研究の管理及び運営 3) 年次大会での分科会企画事業の実施 4) 熱交換器に関する技術セミナーの企画・実施 5) 伝熱技術WGによる活動 (伝熱データベースの充実と公開、熱交換器技術の 体系化、専門書出版など)
次世代冷凍システム技術分科 会	地球温暖化対策のために、冷凍 空調分野の次世代の要素技術お よびシステム技術に対して、 フィジビリティスタディを実施 し、その結果を年次大会にて 報告する。 また次の温暖化防止に関する 情報を収集する。	分科会開催 年4～6回	1. 潜熱顕熱制御を考慮した省エネ冷凍システムの 技術調査 2. 新冷媒も含め、次の冷凍空調技術に関する技術 調査 3. 2009年度年次大会におけるWSまたはPDの企画
アンモニア冷凍設備新技術分 科会	アンモニア冷凍設備の新技術の 開発を目指した技術情報の収集 と普及活動	委員会3回	NH ₃ -CO ₂ システムの市場実績調査ほか

サイクル制御WG	1)潜熱顕熱分離空調 2)海外展開 3)Air To Waterを念頭において冷媒サイクル制御による省エネ制御技術の調査研究を実施する。	年5～6回の打ち合わせを実施する。	1)他学会での省エネ、潜熱分離空調技術展開の整合性調査 2) 海外規格調査 3) 新APFの調査
ヒートポンプ期間性能評価手法に関する調査研究プロジェクト	GHPの性能評価手法検討		実機性能計測により評価手法検討
冷凍空調便覧改訂分科会	基礎編，食品・生物・医学編を年度内刊行	・ 冷凍空調便覧基礎編改訂実行委員会2回 ・ 冷凍空調便覧食品・生物・医学編改訂実行委員会3回	基礎編:H21年度早期に刊行 食品・生物・医学編:H21年度内刊行を目指し、編集継続

事業担当常務理事会

委員会名	活動計画	活動日程	具体的活動事項
事業委員会	冷凍空調技術講習会(東京) 冷凍空調技術講習会(大阪) 冷凍空調技術講習会(名古屋) 冷凍空調技術講習会(福岡) 第一種冷凍機械講習 第二種冷凍機械講習(1回目) 第二種冷凍機械講習(2回目) 冷凍空調基礎講習会(冷凍基礎) 冷凍空調基礎講習会(冷凍応用) 委員会	2月 2月 2月 2月 5月 2月 6月 7月 9月 9月・3月	各地区の活動状況の報告
若手技術者研修委員会	1. 若手技術者(企業・大学)への学会参加メリットをアピールする研修会を企画、実施する。 2. 20年に第1回を実施したので反省を含めさらに充実を目指す	委員会:4-5回 企画・反省会 研修会:1泊2日の研修会	委員会:若手委員による研修会の企画を行う。 研修会:20-30名にて講演、イベントを含む研修会を実施し、最新情報の入手、人脈作りを行う。
関東地区 事業推進委員会	随時講習会 セミナー 電動式冷凍機関係 1回 吸収式冷凍機関係 2回 見学会 3回 定例講習会 第一種冷凍機械講習 1回 第二種冷凍機械講習 2回 基礎講習会基礎コース 1回 基礎講習会実務コース 1回 冷凍空調技士受験準備講習会(東京・大阪・名古屋・福岡) 1回	4月、6月、10月 3月 9月、11月 5月、7月、9月 5月 2月、6月 7月 9月 2月	4月は新冷媒に関するセミナーを企画中以降の企画は鋭意計画予定(エネルギー、環境問題)ヒートポンプの最新動向 コージェネ、ガス吸収冷温水機 最新施設、技術的関心を呼ぶ施設
サービス・メンテナンス推進 分科会	分科会 勉強会	4月 6月 9月 12月 4月 9月	熱源へのメンテナンスに向けた情報収集と告知への活動 メンテナンスのあり方を考える分科会内での勉強会
北海道地区 事業推進委員会	第1回委員会 第2回委員会 見学会 冷凍空調基礎講習会 第3回委員会 セミナー 第4回委員会	H21年6月 H21年7月 H21年9月 H21年11月 H21年12月 H22年2月 H22年3月	理事会報告および活動計画の確認と一部準備内容の確認 事業準備状況の確認 地域の冷凍・空調施設見学 冷凍・空調関連の基礎的および実務的知識に関する講習会 完了行事の評価点検、実施予定行事の準備状況確認、次年度事業内容の検討 冷凍・空調あるいは食品に関わるテーマのセミナー 決算および活動内容の総括次年度活動計画の確認

<p>東北地区 事業推進委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回事業推進委員会 ・ 東北地区講習会（第1回） ・ 第2回事業推進委員会 ・ 施設見学会 ・ 東北地区講習会（第2回） ・ 第3回事業推進委員会 ・ 東北地区講演会（第3回） ・ 第4回事業推進委員会 	<p>H21年4月</p> <p>H21年7月 H21年9月 H21年10月 H21年11月 H21年12月</p> <p>H22年2月 H22年3月</p>	<p>H21年度活動計画・H20年度会計報告委員の選出について （仮称）「地中熱利用ヒートポンプ」 第1回講演会開催結果、内容等 （仮称）「利府町役場庁舎」 冷凍空調基礎講習会（冷凍）・（空調） 「H22年度委員会活動計画」 「H22年度委員会予算書」等の調整 （仮称）「低酸素社会に向けた冷凍技術」 「H21年度委員会活動報告」等の調整</p>
<p>中部地区 事業推進委員会</p>	<p>委員会 幹事会 幹事会 技術セミナー 幹事会 第3回中部地区技術交流会 幹事会 見学会 委員会</p>	<p>4月 4月 5月 7月 7月 11月 11月 2月 3月</p>	<p>21年度役員確認、事業活動テーマ協議 事業計画具体化協議 技術セミナー 開催要領協議 冷媒・地球温暖化の最新動向 技術交流会開催要領協議 テーマ未定 見学会 開催要領協議 テーマ未定 21年度活動報告・22年度活動計画協議</p>
<p>近畿地区 事業推進委員会</p>	<p>1.見学会（2回開催） 2.冷凍空調実用講座（冷凍） 3.冷凍空調実用講座（空調） 4.冷凍空調実用講座（ガス） 5.さろんセミナー 6.最新技術セミナー 7.シンポジウム 8.事業推進委員会開催 9.特別委員会 10.一般公開セミナー</p>	<p>開催日未定 年 2回 9月開催予定 9月開催予定 2月開催予定 開催日未定 開催日未定 開催日未定 毎月開催11回 / 年 必要に応じ随時開催 開催日未定</p>	<p>最新設備等の見学会2回予定。 2日間で開催、中堅技術者の育成のため、独自の講師テキストで冷凍技術Q & A、応用技術の習得を図る。 2日間で開催、中堅技術者の育成のため、空気線図の応用、実際の設計事例での恒温恒湿設備の設計、産業空調の事例検討等。 最新のガス空調機器に関する実用講座 食品等を含めた話題性のある内容で開催。 先端技術をはじめとした最新技術セミナー 過去19年間毎年開催している近畿の顔としてより充実を図る、全員参加の恒例パネルディスカッションで盛り上がりを図る 毎月開催各委員の意見交換企画立案、検討 シンポジウム等の開催に関する特別委員会 20年度に行った一般公開セミナーの続編を計画する。</p>
<p>西日本地区事業推進委員会</p>	<p>西日本地区事業推進委員会 見学会 第10回技術交流会 見学会又は技術セミナー（中国四国地区） 見学会 技術セミナー さろんセミナー</p>	<p>4月，6月，8月， 10月，12月， 2月，3月， （7回） 6月 9月 11月 1月 3月 8月，2月</p>	<p>地区事業の計画立案・検討・実施等について審議 1. 各事業の更なる活性化 2. 地区内の学会入会勧誘活動の強化 3. 西日本地区の九州地区と中国四国地区への分割による事業推進活動の更なる活性化に関する検討 4. 福岡地区以外での事業開催 西日本地区における最新施設・設備の見学 産業界と大学等研究機関との最新の研究開発課題に関する技術交流 中国・四国地区における最新施設・設備の見学，あるいは最新技術動向に関するセミナー 西日本地区における最新施設・設備の見学 最新技術動向に関するセミナー 事業推進委員及びその関連の大学，企業関係者による最新の技術情報公開セミナー</p>

<p>食品冷凍事業委員会</p>	<p>講演会を4回開催する</p> <p>講習会を2回開催する</p> <p>見学会を開催する (目標2回)</p>	<p>1.平成21年5月下旬 (東京ビックサイト)</p> <p>2.平成21年7/19~24 (北海道)</p> <p>3.平成21年10/21~23 (中央大学での年次大会)</p> <p>4.平成21年11月中旬~12月初旬 (広島大学)</p> <p>5.平成22年1月下旬 東京 1回</p> <p>6.平成22年1月下旬 大阪 1回</p> <p>7.平成21年11月中旬 ~12月初旬(広島)</p> <p>8.食品工場を一件予定 (時期未定)</p>	<p>1.第14回 国際食品素材/添加物展・会議 (ifia JAPAN 2009)セミナー「おいしさの科学フォーラム」食品化学新聞社との共催</p> <p>2.「クライオバイオロジー国際会議」：低温生物工学会から当会に協賛依頼をする予定である。</p> <p>3.年次大会： 一般公開セミナー：冷凍食品協会とのコラボレーション企画、シンポジウムの企画、オーガナイズド・セッションの企画</p> <p>4.広島大学でシンポジウムを開催予定。 7.の「牡蠣の養殖HACCPと日本酒製造の温度管理システム見学会」と合同企画であり、参加費の軽減を図り多くの参加者を募るため、予算を確保して、経費を当委員会が負担する予定。</p> <p>5.食品冷凍講習会(関東)の企画 6.食品冷凍講習会(関西)の企画 食品冷凍技士試験を対象にした食品の冷凍技術、品質管理、衛生、生産管理に関する基礎的な講習会を東京と大阪で開催する。共催：冷凍食品検査協会 冷凍食品技術研究会(関東・関西)、協賛：日本冷凍食品協会、食品機械工業会(予定) 北海道開催への準備講演会</p> <p>7.牡蠣の養殖HACCPと日本酒製造の温度管理システム見学会(一泊二日)： 牡蠣の養殖は2月、日本酒製造は11月~3月に最盛期を迎える。泊りがけの企画になるので、宿の確保、移動手段、見学コース、予算、シンポジウムも含めて内容を検討する必要がある。</p>
<p>出版事業委員会</p>	<p>委員会を開催し、以下の項目を中心に学会図書出版について議論し、必要となる作業をすすめる。主な課題は、</p> <p>1.新規発行図書の作成・編集作業のフォロー 2.新刊/改訂の企画進行のウォッチ、フォロー 3.新刊/改訂の企画・検討 4.既刊専門書、出版物の見直し 5.既刊出版物の販売促進である。 個々の詳細は具体的活動事項に記す</p>	<p>H21/4月から H22/3月 (1.5~2ヶ月毎に委員会開催。)</p> <p>作業の進行状況の確認はE-mailで行い、議論を要しないと考えられる承認作業についてもE-mail審議を活用する。</p>	<p>1.新規発行図書の作成・編集作業のフォロー 凝縮器の熱設計(新刊)、冷凍空調設備のサービスマンテナンス(新刊)、冷凍圧縮機(新刊)の作成・編集作業を把握するとともに、計画通り遂行できるよう積極的に協力する。</p> <p>2.新刊/改訂の企画進行のウォッチ、フォロー 「冷蔵倉庫」の改訂・「冷凍」特集号からの編集執筆を目指している。</p> <p>3.新規発行図書の企画・検討 技術分科会、WGに出版企画を検討してもらうよう働きかける。</p> <p>4.既刊専門書、出版物の見直し 「自動制御機器」、「測定器の取扱方法」については、引き続き検討</p> <p>5.既刊出版物の販売促進 出版物とリンクしたセミナー、シンポジウムの開催、年次大会での特別セッションなど、事業推進委員会と共同企画による販売促進を検討する。</p>
<p>通信教育委員会</p>	<p>1.通信教育講座前期6月生の添削指導</p> <p>2.通信教育講座後期10月生の添削指導</p> <p>3.新規添削問題作成作業の開始</p> <p>4.添削結果の採点基準の各添削者間の水準化と次回印刷のための出題内容の修正作業</p> <p>5.学会ホームページ用の入門者自己診断用問題(入れ替え用)の作成要請があれば作成</p>	<p>H21/6月から 21/11月</p> <p>H21/10月から 22/3月</p> <p>H20/12月から 22/5月</p> <p>H20/12月から 22/5月</p> <p>不定期</p>	<p>受講生60から100名の添削指導を各委員分担して実施の予定。予算は60名として計算。 因みにH20年は80名の応募があった。</p> <p>受講生50から100名の添削指導を各委員分担して実施の予定。予算は55名として計算。 因みにH20年は75名の応募があった。</p> <p>大手企業の団体申し込みによる問題・解答の引継ぎ防止対策として、2~3年ごとに新規に問題を作成しているが、今年は2年目に当たり約80問の新規問題作成作業に入る。</p> <p>添削ごとに毎月開催の委員会で採点基準の確認と受講生の解答内容から難易度を配慮して問題のヒントなどを次回印刷用として修正している。</p> <p>要請があれば、通信教育の添削問題の一部をホームページ用書き換えて提供する。</p>

<p>冷凍技士 運営委員会</p>	<p>1. 冷凍空調技士・食品冷凍技士 への情報サービス</p> <p>2. 技士大会開催</p> <p>3. 広島シンポジウム</p>	<p>委員会：1回/ 二か月 開催</p> <p>分科会：随時開 催</p>	<p>News Letter発行 2回/年 冷凍技士研修会開催 3回/年 年次大会冷凍技士セミナー企画運営 1回/年 ホットな情報のホームページへの書き込み 首都圏以外での研修会開催検討</p> <p>首都圏以外での開催を具体化 年次大会に合わせた開催を目指し、技士セミナー 同様年次大会本部と連携をとる。</p> <p>食品事業委員会主催のシンポジウムへ技士優待</p>
<p>冷凍空調技士 考査委員会</p>	<p>H21年度の冷凍空調技士試験用の 問題を作成し、冷凍空調技士試 験の前に冷凍空調技士講習会を 行い、その後に試験を実施す る。 試験後、分科会および考査委員 会において試験結果の審議検討 を行い合格者を決定する。</p>	<p>8月</p> <p>9月～12月</p> <p>1月</p> <p>2月</p> <p>3月</p> <p>4月</p>	<p>専門の先生方に依頼し試験問題を作成する。</p> <p>冷凍空調技士試験分科会を召集し、 出題の先生方に討論に加わっていただき試験問題 について検討、修正を加える。 ゲラ刷りの段階で、試験分科会委員の意見を集 め、最終的な試験問題を決定する。 試験問題の印刷。 冷凍空調講習会用に「冷凍空調技士講義要綱」を 作成する。</p> <p>冷凍空調講習会の実施。</p> <p>冷凍空調技士試験の実施。</p> <p>試験解答の採点</p> <p>冷凍空調技士試験分科会を召集し、最終 的な試験解答の採点を行ない、合否を決定後考査委 員会を開催する。</p>
<p>食品冷凍技士 考査委員会</p>	<p>H21年度の食品冷凍技士試験用の 問題を作成し、食品冷凍技士試 験を実施する。また食品冷凍技 士試験の前に食品冷凍講習会を 実施する。 考査委員会では、試験結果につ いて考査し、合格者を決定す る。</p>	<p>8月</p> <p>9月～12月</p> <p>1月</p> <p>2月</p> <p>3月</p> <p>4月</p>	<p>専門の先生に依頼し試験問題を作成する。 第1回の食品冷凍技士試験分科会を召集し、作成 した試験問題について検討、修正を加える。この 際、問題を作成した先生方にはこの試験分科会に出 席し討論に加わっていただく。 ゲラ刷りの段階で、試験分科会委員の意見を集 め、第2回目の食品冷凍技士試験分科会を召集し、 ここで最終的な試験問題を決定する。 試験問題の印刷。 食品冷凍講習会用に「食品冷凍技士講義要項」を 作成する。</p> <p>食品冷凍講習会の実施。</p> <p>食品冷凍技士試験の実施。</p> <p>試験解答の採点（1次採点は出題者に依頼）</p> <p>第3回目の食品冷凍技士試験分科会を召 集し、最終的な試験解答の採点を行ない 審議後、考査委員会にて合否を決定する。</p>